

松戸ロータリークラブ

【2010-11年度国際ロータリーテーマ】

地域を育み、大陸をつなぐ

Building Communities,
Bridging Continents

[第2655回例会]

会 報

No.2654

2010年11月24日発行

●四つのテスト

言行はこれに照らしてから

- ① 真実か どうか
- ② みんなに公平か
- ③ 好意と友情を深めるか
- ④ みんなのためになるか どうか

●THE 4-WAY TEST

Of the things we think, say or do

- ① Is it the TRUTH?
- ② Is it FAIR to all concerned?
- ③ Will it build GOODWILL and BETTER FRIENDSHIPS?
- ④ Will it be BENEFICIAL to all concerned?



地域を育み、大陸をつなぐ

本日のプログラム

2010年11月24日(水)

卓 話

「ロータリーに入会して」

浅井利明 会員

次回のプログラム

2010年12月1日(水)

クラブ年次総会

- 例会日 毎週水曜 12:30~1:30
- 例会場 伊勢丹松戸店本館11Fバンケットルーム
TEL: 047-364-1111
- 事務所 松戸市松戸1281 ユニティビル2F
TEL: 047-366-2266
FAX: 047-361-2255
U R L : matsudo-rc.com
E-mail : info@matsudo-rc.com

- 会 長 伊原 清良
- 会長エクト 常盤 映彦
- 副 会 長 加藤 栄
- 幹 事 松田 茂一
- 会 計 加瀬 仁
- 会報委員 松本 幸夫 申 澈権 太田原慎一
- 山田 達郎 澤田 正宏 土肥伸一郎
- 加瀬 仁 車田 善教 浅井 利明
- 三国 大吾



インターアクト委員会

下田由起男 委員長

～11月1～7日は「世界インターアクト週間」～

聖徳大学附属中学校・高等学校インターアクトクラブは、今年度 中学生も加わり、約50名の部員がいるそうです。

さて、7月に開催されました年次大会へは、伊原会長と共に参加してまいりました。その中で、一年間アメリカ留学を体験してきた阿部桃子さんが、その報告をしました。翌日には毎日新聞にも掲載され、大変評判の良いものでした。

10月には、文化祭を見学させていただき、専用の部室があることに驚きました。

また、手作りのクッションなどを販売していましたので、ひとつ購入しましたが、いつも、我家の犬と取り合いをしております。

今日は前迫先生と共に3人の生徒の皆さんが、来てくださり、最近の報告をしていただきます。また、来月にも、クリスマス例会に参加していただきます。それでは、宜しく申し上げます。



2010-2011年度 聖徳大学附属女子中学校高等学校 インターアクトクラブ 平成22年11月27日(水) MRC例会・発表次第

「例会」参加生徒：3名 高校2年生部員：2名
(高校1年生部員：1名)

- ・渡邊 愛理(わたなべ・あいり) 高2
- ・高橋 未来(たかはし・みき) 高2
- ・福島 菜七(ふくしま・なな) 高1

1. 参加の挨拶

クラブ顧問：前迫勝明

- 【内容】 「例会」招待への御礼
部長・留学生の不参加のお詫び
活動支援への御礼
本年度の部員紹介

今年度も、私たち聖徳大学附属女子中学校高等学校インターアクトクラブを松戸ロータリークラブの「例会」にお招きいただきまして、そして、インターアクトクラブの活動報告の「場」をもうけてくださいます。まことに有り難うございます。

報告に先立ち、皆様にお詫びを申し上げます。昨年度・今年度と2年間続いてインターアクトクラブの部長として精力的に活動している高校3年生の菊地志帆(きくち・しほ)と、交換留学生の阿部桃子(あべ・ももこ)は、大学入試の最中で、挨拶に参ることができませんでした。今回は、高1・高2のメンバーで活動報告をさせていただきます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

私たちは、毎年11月の「例会」にお招きいただき、松戸ロータリークラブの皆様方に、1年間の活動の報告し、日頃の活動支援へのお礼を申し上げます。これからも、さらに私たちのボランティア活動を高めていきたいと思っております。

毎年、物心両面で私たちの活動を支えてくださり、まことに有り難うございます。昨年度は、聖徳大学附属女子高校が国際ロータリー第2790地区の地区代表校・当番校としての無事に役目を果たすことができました。「第43回インターアクト年次大会」を開催したり、「第22回インターアクト国外研修」に参画したりと、部員たちは大きく活動を広げました。その甲斐あって、今年度、私たちのインターアクトクラブは、部員数が50名に近づいております。高校生が45名、中学2年生が4名です。昨年この「例会」に参加の時には、過去最大に成長していることを報告いたしました。しかし、今年になって、更に部員も増え、成長しております。これからも、もっともっと頑張っ、活動を高めていきたいと思ひます。

これからも、なにとぞよろしくお願ひ申し上げます。どうも有り難うございました。

2. 活動報告（生徒発表）

A「第44回インターアクト年次大会」参加感想文

- ・報告生徒：高橋未来「今を生きる」
- ・報告生徒：福島菜七「インターアクト年次大会に参加して」

「今を生きる」

高橋未来

私は、今回インターアクト年次大会に参加し、今回のテーマである「今を生きる」ということはとても大切なことだと思ひました。なぜ大切かという、理由は2つあります。

まず、1つ目は「子供たちに希望を与える」ということです。今回、記念講演として毎日新聞大阪本社から広岩近広さんが来られて「今を知る」という講演を行いました。色々お話をなさっている中で、「アフリカの子供たちはワクチン接種の時の目が希望にあふれている」と話されていることが一番心に残りました。ですので、貧しい国の子供たちは今必死に生きようと努力しているのではないかと思ひ、心が熱くなるばかりです。どうかして今を生きようとしている子供たちに希望の手を差し伸べることができたら良いなと思ひ

ました。

2つ目は、「自分の身は自分で守る」ということです。午後の部は各分科会に別れてディベートなどを行いました。私は、第5分科会までである中の第4分科会に参加し、テーマは「HIV」についてでした。私はこの分科会の中でHIVとはどういうものなのかをととてもよく知ることができました。その話のなかで、「HIVとエイズは違うもの」ということや、「エイズには治療薬が無く、潜伏期間は10年くらいでそれは特定できない」などのことを聞いて少し衝撃を受けました。やはり、防ぐには自分の身を守るためにやるべきことをすることだと確信しました。そのことで、将来に希望が持てたらこの上嬉しいことは無いと思ひます。

私はこの1日で、「今を生きる」ということがどんなに有難いことかと思ひました。世の中には平和があれば戦争もある。光があれば影もある。今、私たちがこうして光がある1日1日を過ごせることが本当に感謝の気持ちで一杯です。この大会を機に、今を生きていることの素晴らしさを少しでも感じてもらえればと思ひました。

今回の年次大会では私にとって、とても充実した考える体験をすることができました。このような大会に参加させて頂きありがとうございました。

「インターアクト年次大会に参加して」

福島菜七

今回のインターアクト年次大会で印象に残ったのは毎日新聞社大阪本社の広岩近広さんの講演が聞けたことです。私は将来、マスコミ関係のお仕事がしたいと考えているので、実際の現場の方の声を聞くことができ、とても有意義な時間を過ごすことができたと思ひています。

日本では今、戦争は起こっていませんが、他の国では生活の一部となってしまう場所もあります。私は7月にイギリスに行った際、同じぐらいの年齢の子がイスラエルでは紛争がよくあるということを知りました。このような問題を解決するのは難しいですが、相手をよく知ること、理解することが大切だと思ひます。だからマスコミの仕事は真実を正確に伝えなくてはならない、大切な仕事だなと思ひました。

また広岩さんはマスコミの仕事は英語が大切であるとおっしゃっていました。私は英語が好きですが、まだ得意ではないので努力し、得意になりたいです。そして将来、マスコミの仕事に携わることができたら情報をしっかり正確に伝えたいと改めて思いました。

今年年次大会を開いてくださり、このような機会を与えてくださった千葉県ロータリークラブの皆さまや千葉経済大学附属高等学校の皆さまに厚く御礼申し上げます。

ありがとうございました。

B「第23回インターアクト国外(大韓民国)研修」 (3泊4日)参加感想文

- ・報告生徒 : 高橋未来「絆」
- ・報告生徒 : 渡邊愛理「わくわくな4日間」

「絆」

高橋未来

私は今回、第23回インターアクト国外研修で韓国へ行きました。韓国はどのような文化があるのかすごく興味があったので参加しようと思いました。

今回体験した中で、最も印象深かったことは、韓国茶道の研修体験です。また、チマチョゴリという伝統衣裳の試着体験と「善芽園」への訪問もとても良い思い出になりました。そして、韓国茶道は日本の茶道とは異なり、茶を入れて待っている間に座禅をします。それは、心を落ち着かせるためだと思いました。茶も甘みがあって美味しかったです。伝統衣裳は、普段韓国でお祝い事があるとこの伝統衣裳を着るそうです。そのような衣裳を着ることができて、とても嬉しく思いました。韓国の人になれたような気分でした。

そしてもう1つは、「善芽園」への訪問です。この「善芽園」とは、知的障害を持った子供たちがいる施設です。ここでは、歓迎セレモニーを開いてくれました。子供たちと一緒に歌を歌ったり、踊ったりして交流を楽しみました。子供たちはすごく元気がよくてエネルギー満ちでした。子供たちの笑顔がたくさん見ることができたことがすごく嬉しいです。

この他にも、韓国の料理をたくさん食べること

ができました。中でも、本場のビビンバや薬味などが入った参鶏湯などがすごく美味しかったです。そして、釜山大学の学生さん達が色々な所を案内してくれたり、韓国の文化などを教えてくれました。学生さん達と一緒に観光ができて楽しく交流を深めることができました。

今回、この国外研修に参加して感じたことは「絆」です。この「絆」は、同じ学校の仲間、他の学校の人たち、韓国の人々と結ぶことができました。短い期間ではありましたが、様々な体験を通じて「絆」をより一層深めることができたと思っています。この「絆」を大切にこれからもこのことを心に刻み歩んで行きたいです。

この国外研修は私にとって一生の思い出になりました。私たち5人を韓国に行かせてくれたロータリークラブの皆様に感謝しております。ありがとうございました。

「わくわくな4日間」

渡邊愛理

私は今年三泊四日で韓国研修に参加させていただきました。不安や緊張をかかえながら成田を出発しました。私たちはついに国境をこえました。着いてすぐにバスで市役所に向かいました。町の風景、景色、道路などハングルで溢れ日本ととても異なっていました。市役所では韓国の歴史を聞いたり伝統料理のビビンバをいただきました。歴史については韓国の文化や道具など異文化を知ることができました。

二日目は茶道の伝統体験をしました。韓国のお茶はとても香ばしく日本の抹茶とは全く異なっていました。作法なども違っていました。チマチョゴリも着ることが出来るようになり、まるで韓国人になったようでした。午後は忠烈祠を見学しその後で障害者施設を訪れました。今までは日本人の人たちとしか触れ合えませんでした。海外の人たちとも触れ合うことができました。初めて緊張しました。しかし子ども達は元気がよく、パワーをもらいました。最後に寄付もしました。このお金が役に立ってもらえれば嬉しいです。その後釜山大学の散策をしました。ここでは学生たちが案内してくれました。そこでは韓国人の学生のみ

んなは釜山の町の様子を親切に説明してくれました。日本ではあまり見たことがないような親切を学生達はあたりまえのようにしてくれました。この国は思いやりのある国だなと感じました。

三日目は凡魚寺を訪れました。山の上の方に建てられてるので眺めがよかったです。またお参りの仕方などここでも日韓の違いを感じました。午後は観光をしたり釜山タワーに行きました。物価がとても安くて驚きました。プルゴギを食べた後解団式がありました。ここで韓国の学生達ともお別れをしました。とても寂しかったですが、これからは友達でいられたらいいなと思います。また感謝の気持ちでいっぱいでした。そして案内してくれた方々にもお礼を言いました。そして日本へ帰国しました。こうして研修が終了しました。

今回この研修を通して様々なことを学びました。また自分自身成長したとも思えます。国際交流や異文化、韓国の人々とのふれあいなど、どれも貴重な体験をすることができました。またガイドさんも言っていた日韓関係や歴史なども知っておこうとおもいました。絶対わすれてはならないと思います。これからは日本と韓国がより仲良くなってほしいです。この研修に参加させてもらいお世話いただいた人たちに感謝したいです。ありがとうございました。

C 「第80回春季あしなが学生募金活動」参加感想文
・報告生徒：福島菜七「あしなが学生募金に参加して」

「あしなが学生募金に参加して」

福島菜七

私は今年の春、インターアクトクラブの一員として、あしなが学生募金活動に参加しました。あしなが学生募金で集まったお金は病気や災害、自殺などで親を亡くした方の中で、高校に進学したい方に寄付されますが、遺児の方が進学するためには、まだまだお金が必要であると痛感しました。

公立高校の授業料の無償化により、正直にいうと高校進学にはお金がかからないものだと思います。そして、私もそうだと勝手に思っていました。しかし教科書などの教材費、通学費などま

だまだ遺児の方が進学することは難しいそうです。また、進学できないことによって、就職もできず貧困のサイクルに陥ってしまうこともあるそうです。

活動に参加した感想は、以前にも参加したことがあり慣れている点もありましたが、やはり最初はなかなか声が出ずに、駅を通る方も立ち止まらずに過ぎて行ってしまいました。少しずつ声を出せるようになった時には、多くの方が立ち止まってくださり、「頑張ってるね。」などと声をかけてくださる方もいらっしゃいました。他の駅で活動しているボランティアの方を実際に見て、まだまだだなと感じ、それからさらに大きな声で、そして心をこめて募金を呼びかけました。その結果、前よりもより多くの方が募金をしてくださって嬉しかったです。

きっと募金をしてくださった方は少しでも自分にできるかぎり、助けたいと思っている方だと思います。私はまだまだとても困っている方を助けることは無理だと思っています。しかし自分なりにできることを探して、身近なことから少しでも力になればいいと思っています。そしてこのような経験をできたことを活かしていきたいです。

秋の募金活動にはなかなか予定が合わず、参加することができず残念でしたが、次は是非参加したいと思っています。そして高校で学びたいと思っている方が少しでも多く進学できたら嬉しいです。

松戸ロータリークラブの皆様にはこれからも、私たちのインターアクトクラブの活動をあたたかく見守っていただきたいと思います。お待ちしております。

ありがとうございました。

D 「平成22年度インターアクト活動」

・報告生徒： 「大好きなボランティア」

「大好きなボランティア」

渡邊愛理

私が今年もっとも印象的だったボランティア活動は、9月10日～13日に行った韓国研修です。韓国の人との交流はとても良い体験でした。とても優しく接してくれました。障害者施設では、ダンスを披露してくれたり、一緒に歌ってくれたりし

ました。また、元気の良い子供たちが、沢山集まっていた。これからも、元気でいてほしいと思いました。そしてまた、訪れたいと考えています。

このほかにも、いろいろな活動をしています。夏休みには、はなまるクラブにも行きました。その生徒たちと、鉄道博物館に行きました。はなまるクラブは初めてだったので、どんな子供たちなのだろうと、思っていました。行ってみると、笑顔で迎えてくれて、元気いっぱいでした。博物館では、はなまるクラブの子が一人とボランティア二人の三人組を作って、館内を回りました。子供たちは関心を持って見てくれたり、喜んでくれたので、とてもうれしかったです。普段、障害者の人たちとは、関わりがないので、この機会に色々触れあう経験ができて、私も楽しい気分になりました。来年も是非、参加したいです。

そして、今年の春も、毎年行っている、あしなが学生募金に参加しました。松戸駅で、みんなで場所を分担して行いました。三時間くらいの間、道に立って、募金をお願いをする文章を読んだりします。ほとんどの人は通り過ぎてしまいます。しかし、「頑張って。」と声をかけてくれる人や、誰も聞いてくれないかな、と思った募金活動の文章に耳を傾けて、「聞いている人も必ずいるよ。」と、励ましてくれた年配のおばあちゃんもいました。このように、暖かい声をかけてくれる人も沢山いてくれて、また頑張ろうと勇気づけられました。

高校二年生の今年も、色々なボランティア活動ができました。ボランティア活動は思いやりがある活動です。私は、そんなボランティア活動が、大好きです。これからも続けていきたいです。

毎回、松戸ロータリークラブの皆様のおかげで支援をいただき、インターアクトのみんなと感謝しております。ありがとうございます。

3. 報告終了の挨拶

- ・本日の「例会」招待への御礼
- ・平成22年度「第14回 ボランティアスピリット賞」応募の報告

聖徳大学附属女子中学校と高等学校のインターアクトのボランティア活動に対してそれぞれに「感謝状」をいただきました。



顧問 前迫先生



川並会員



第14回 ボランティアスピリット賞 感謝状



第23回インターアクト国外(大韓民国)研修 発表

会 長 挨 拶



伊原清良 会長

聖徳大学附属中学校・高等学校 インターアクトクラブ・顧問教師の前迫勝明先生、ならびにインターアクト

クラブの渡辺愛理さん、高橋未来さん、福島菜七さん、ようこそお越しくございました。ごゆっくりお過ごしください。昨年は、第2790地区のインターアクトの年次大会を聖徳大学附属高等学校にて、立派にサラッとカッコ良く、やって頂きました。盲目のバイオリニスト・増田太郎さんの人生に前向きな人柄の楽しいコンサートをはじめ、様々なコースの体験学習を用意されました。今年度は千葉経済大学附属高等学校・インターアクトクラブによる年次大会に下田委員長と一緒に参加してまいりましたが、進行全体にあまりメリハリがなく、年次大会を迎えるという熱意を感じられませんでした。提唱ロータリークラブと学校側との間に打ち合わせや指導がどうだったのかとも思われました。今月は、世界インターアクト月間があります。本日の卓話は「インターアクトについて」下田由起男会員にお願いしてあります。

11日（木）に中山政明・地区職業奉仕委員に同行して、誕生してホヤホヤの浦安ベイロータリークラブの例会に参加してまいりました。「只今より、第26回の例会を開催いたします。……」と健気に会を進行していました。ちなみに本日の松戸ロータリークラブの例会は第2654回であります。伝統の重みを感じた瞬間でした。

横綱・白鵬の連勝が63で終わりとなりました。

白鵬を倒したのは、松戸市八ヶ崎にある鳴門部屋の稀勢の里であります。鳴門部屋の親方は、おしん横綱と言われた、隆の里です。20年程前、鳴門親方に、ある例会で講演を依頼しました。当時も皆、千代の富士のことは良く知っていました。ですから相撲協会に掛け合い、千代の富士との激闘した取組みの映像ビデオを会場に流しました。そしてピンスポットを当てて「それでは、元横綱隆の里。鳴門親方の入場です……」例会場の空気は一気に盛り上がりました。例会前、私は立場上、親方の接待をしました。サンドイッチに付いていたパセリを食べながら、自分は東北出身だから、パセリは彩りで食べるものではないと思っていたそうです。ある時に旭国関に食べないならとバクッとパセリを取られた時、この世界は食うのも競争だと思ったとつくづく話していました。その後、朝稽古を見に行ったり、千秋楽の鳴門部屋での打ち上げに招待されたりしました。激しいぶつかり合いはさすがプロであります。稽古でどんなにヘトヘトになっても、兄弟子に、「ごっちゃんです」と大声で言って終わるのを観て、熱いものを感じました。皆さんも機会があったら、是非ご覧になるといいと思います。

白鵬が尊敬する不世出の大横綱、双葉山には有名な木鶏のエピソードがあります。負けて、恩師宛に「今だ、木鶏たりえず。」と電報を打ったというエピソードであります。一方、その双葉山に勝った、安芸の海が親方に褒められるどころか、「なあ節男よ、負けて騒がれる力士になれよ。」と言われ、その後、猛精進して横綱になったという、いい話もあります。

木鶏とは、中国の古典「荘子」に載っている逸話で、王が鬪鶏を飼育する名人に飼育を依頼。その名人は「まだカラ元気です、相手を見ると興奮する、なにをコヤツ、とムキになることがある」

と3度、王の催促を拒否。4度目にやっと、「どんな相手でも動ぜず、木彫りの鶏のようです。」と差し出したという。この話を聞いた双葉山はいたく感激して「木鶏」と書いた額を掲げてモットーとしたそうであります。

日本人の心を理解しようとするモンゴル出身の若い白鵬。昨日も新たな一勝を上げました。

幹事報告



松田茂一 幹事

1. クラブ内、会議・連絡事項等の案内

- ① 例会終了後クラブ協議会があります。

2. 外部からの会議・連絡事項等の案内

- ① 2011年国際ロータリーNEW ORLEANS大会の案内が届いています。

3. 他クラブ会報・その他

会報が我孫子RC、沼南RCより届いています。

4 例会変更の連絡

特にございません。

5. その他報告

特にございません。

例会報告

[出席報告]

会員53名	義務会員44名	免除会員 9名
出席45名	義務会員39名	免除会員 6名
仮欠 8名	義務会員 5名	免除会員 3名

[欠席者]

小倉 純夫君 島村 善行君 大川 吉美君
織田 信幸君 浅井 利明君

[M U]

草野 進君 松戸北RC 11月16日
篠宮 功君 地区大会 11月7日

本日出席率 90.0%
先々週出席率修正 86.0%→88.0%

ニコニコBOX

杉浦章浩君 / 先週はテンパッてしまい、忘れてしまいました。誕生日のお祝いありがとうございます。

小林 登君 / 所用の為早退させていただきます。

ニコニコBOX	当日¥ 6,000	累計¥518,000
財 団BOX	当日¥ 3,679	累計¥ 74,123

文責 / 山田 (達)

